

学校法人 医療創生大学
千葉・柏リハビリテーション学院

2019 年度
学校関係者評価

I. 学校関係者評価委員（敬称略・順不同）

・関 敏昭

医療法人社団創造会 平和台病院 リハビリテーション科統括課長

・土居 義典

千葉県作業療法士会 理事

・宮下 雅史

千葉・柏リハビリテーション学院 非常勤講師

・五十嵐 和人

医療法人社団葵会 千葉・柏リハビリテーション病院 事務長

II. 評価項目と評価基準

1. 教育理念・目的・育成人材像等	
1-1	学校の理念・目的・目標は定められているか
1-2	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
1-3	学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
1-4	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
2. 学校運営	
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか
2-3	運営組織は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか
2-4	人事、給与に関する規程等は整備されているか
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
2-7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか
3. 教育活動	
3-1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
3-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
3-6	授業評価の実施・評価体制はあるか
3-7	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
3-8	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
3-9	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
3-11	関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
3-12	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか
3-13	職員の能力開発のための研修等が行われているか
4. 学習成果	
4-1	就職率の向上が図られているか
4-2	資格取得率の向上が図られているか
4-3	退学率の低減が図られているか

5. 学生支援	
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか
5-7	保護者と適切に連携しているか
5-8	卒業生への支援体制はあるか
5-9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
5-10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
6. 教育環境	
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
6-3	防災に対する体制は整備されているか
7. 学生募集と受入れ	
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか
7-2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
7-3	学納金は妥当なものとなっているか
8. 財務	
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
8-3	財務について会計監査が適正におこなわれているか
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか
9. 法令等の遵守	
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
9-4	自己評価結果を公開しているか
10. 社会貢献	
10-1	学生の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

Ⅲ. 評価結果

1. 教育理念・目的・育成人材像等

1-1 学校の理念・目的・目標は定められているか

評価：4／学校の理念・目的・目標を定めている。

1-2 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか

評価：4／社会的なニーズを踏まえて、主体的に考え実践できる学生の育成に努めた。

1-3 学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか

評価：4／教育要項への掲載やオリエンテーションで学生および保護者に周知している。

1-4 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

評価：4／学科ごとに教育目標を定め、理学療法士・作業療法士の育成に努めた。

課題と改善方策

学院ホームページを更新し、より見やすい形で発信が行えた。今後はより広く周知するための活動を実施していく。

評価委員からの質疑と意見

特になし

2. 学校運営

2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか

評価：4／目的に沿った運営方針を策定している。

2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか

評価：4／上記の運営方針に則った事業計画を策定している。

2-3 運営組織は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか

評価：4／運営組織における規則の明確化はなされており、有効に機能している。

2-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか

評価：4／各規程の整備はされている。

2-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか

評価：4／教務・財務等の組織は整備されている。

2-6 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか

評価：4／学院専用の SNS にて適切に情報発信を行った。

2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

評価：4／学籍管理、成績管理などをシステム管理している。また教員間での業務の連携をネットワークサーバーにて可能とし、効率化を行っている。

課題と改善方策

ホームページを更新し、教育活動の情報発信を公開してきた。

更に広く周知するため、SNS での発信の更新頻度を多くしてきた。今後もより情報発信に力をいれていく。

評価委員からの質疑と意見

特になし

3. 教育活動

3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

評価：4／教育理念に沿って主体的に考え実践できる学生の育成に努めている。またその育成を3年間で完成できるようにカリキュラムを編成している。

3-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

評価：3／カリキュラムを変更し、十分な学習時間の確保ができた。しかしながら学生への負担を考慮する必要があった。

3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

評価：4／学科ごとのカリキュラムを体系的に編成している。

3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

評価：4／定期的にシラバスの確認・修正を行っている。また科目ごとに学生の授業評価を実施し、教育方法の修正・開発を行った。

3-5 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか

評価：4／理学療法・作業療法の教育の柱として実習をとらえており、学生が段階的に修学できるように位置付け、実践した。

3-6 授業評価の実施・評価体制はあるか

評価：4／科目ごとに学生の授業評価を実施した。また結果をグラフ化し、全教員が確認の上、授業の修正に努めた。

3-7 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか

評価：3／3名の評価員による学校関係者評価を実施した。また継続して実施できる体制を事務長・学科長を中心に整えた。

3-8 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか

評価：4／各基準は明確となっている。

3-9 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

評価：4／理学療法士作業療法士学校養成所指定規則などにに基づきカリキュラムを編成し、1年次より段階的に修学が行えるように指導体制を整えている。

3-10 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

評価：4／理学療法士作業療法士学校養成所指定規則に基づき、定められている教員を確保している。

3-11 関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか

評価：4／学科ごとに臨床での実践経験の豊かな理学療法士・作業療法士を講師として学内教育を実施している。

3-12 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか

評価：4／毎年複数の教員が理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員講習会に参加し、課程を修了している。また学会等の参加により、先端的な知識・技能を修得している。

3-13 職員の能力開発のための研修等が行われているか

評価：4／外部の学会等に参加し、研鑽を行った。

課題と改善方策

カリキュラム変更により、学生の十分な学習時間の確保を行うことができた。しかしながら学生への負担に対する考慮が必要であると感じた。今後はより専門学校教育に適したカリキュラムを作成するための工夫が必要となり、新たに新カリキュラム導入を目指し準備を進めていく。

また外部関係者からの評価を初めて実施することができた。今後は定期的に評価を受け、改善することが必要である。

評価委員からの質疑と意見

Q1. カリキュラムを変更し授業時間数が増えたことと、退学者数の変化に因果関係はあるか。

A1. 現状、カリキュラムと退学者の因果関係の有無はわかっていない。

退学者数が徐々に低下している理由としては入学試験にて、志望動機が明確な学生を選考できたことが要因ではないかと考える。

カリキュラムとの因果関係については面談やアンケートにより、今後把握していく。

4. 学習成果

4-1 就職率の向上が図られているか

評価：4／卒業生すべての就職を達成しており、また各学生の希望に応じた就職も達成できた。

4-2 資格取得率の向上が図られているか

評価：4／最終学年の学生すべての資格修得を目指しており、毎年の受験数・合格率・各学生の状況を正確に把握している。

4-3 退学率の低減が図られているか

評価：3／退学者の人数に関しては前年度に比べやや減少傾向にあるものの、一定数の退学者は引き続き認められた。

課題と改善方策

前年度から引き続き退学者低減への対策を講じてきたが、一定数の退学者が認められた。今後も入学時からの面談・アンケートによる学生の意識調査にて職業に対する将来像が明確になるようなアプローチが必要となり、また学生個人の詳細な状況を担任のみでなく学科内で共有し、また学科に関係なくすべての教員が学生の情報を把握できる体制づくりが必要と感じる。

評価委員からの質疑と意見

Q1. 国家試験不合格者はどのようにフォローしているのか

A1. 2019年度より「国家試験支援コース」を立ち上げて、不合格者であった卒業生に対して、当学院の教員が学習支援を実施している。

Q2. 卒後の離職率など、追跡調査を実施しているか

A2. 卒業後の追跡調査は実施していないが、卒業後に来校する卒業生から相談を受けることがあり、アドバイスなどを行うことがある。

5. 学生支援

5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか

評価：4／実習施設を中心とした外部施設から就職担当者呼び就職相談会を実施した。また学生が求人票を閲覧できるコーナーを設置している。

5-2 学生相談に関する体制は整備されているか

評価：4／学生相談室を設置し、臨床心理士が学生のカウンセリングを実施している。

5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

評価：4／奨学金支援制度を学生に紹介の上、手続き支援を実施している。また担当職員が定期的に説明会を開催している。

5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか

評価：3／教育要項の規程に則り、健康診断を実施の上、学生すべての結果を管理している。

5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか

評価：4／サークル活動について規程を設け、学生に明示しており、現状ではトレーナーサークルとボランティアサークルの活動が行われている。また、活動費の支援を実施している。

5-6 学生の生活環境への支援は行われているか

評価：4／遠方からの入学者に対して学生寮の紹介を実施した。また入居費用の補助を実施した。

5-7 保護者と適切に連携しているか

評価：4／毎年、保護者会を実施している。また必要に応じて保護者との個別面談を実施している。

5-8 卒業生への支援体制はあるか

評価：4／卒業生の学院利用を推奨し、実習室、パソコン室、図書館利用および図書の貸し出しを実施している。

5-9 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか

評価：4／入学時に iPad を貸与し、学習支援システムの導入にて環境を整備している

5-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか

評価：4／高校生の職業選択科目において、学院の教員が医療に関する職業について講演を実施した。

課題と改善方策

教職員からなる感染症対策委員会を運営しているが、更なる整備が必要である。学生の健康管理についてもすべての教職員・学生に周知できるよう支援体制を整えていく。

評価委員からの質疑と意見

Q1. 学習支援ツールの効果はあるか。また今後も継続していくのか。

A1. 学習効果として数値化をしているわけではないが、学生は教員とのコミュニケーションツールとして使いやすいのではないかと感じている。それ以外でもアンケート機能、授業資料の配信などで活用している。時勢として今後も必要なツールと感じており使用していく予定ではあるが、使用するソフトなどに関しては、今後も検討を重ね、より使いやすいものを選択していく。

6. 教育環境

6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

評価：4／現状の教育課程・教育内容に対応できる設備を整備している

6-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

評価：4／当学院の教育理念を理解していただける実習施設を整備している

6-3 防災に対する体制は整備されているか

評価：4／防災マニュアルを策定し、学生にも通達している。また防災訓練を実施し、全学生が参加している。

課題と改善方策

学生の教育環境の整備を行っているが、更なる整備が必要と考え、2020 年度より教職員からなる防災対策委員会を立ち上げるべく、整備中である。

評価委員からの質疑と意見

特になし

7. 学生募集と受入れ

7-1 学生募集活動は、適正に行われているか

評価：4／学生募集は適正に行われており、2020 年度の定員は充足した。また学生募集要項を毎年更新し明確化している。

7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

評価：4／オープンキャンパスにおいて、国家試験合格率や就職率の状況を説明している。

7-3 学納金は妥当なものとなっているか

評価：4／学納金は社会状況を踏まえ適切に設定している

課題と改善方策

学生募集と受け入れに関して、整備されている。

評価委員からの質疑と意見

特になし

8. 財務

8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

評価：4／安定しているといえる。

8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

評価：4／十分に精査したうえで、予算書の作成を実施した。

8-3 財務について会計監査が適正におこなわれているか

評価：4／会計士による監査を実施した。

8-4 財務情報公開の体制整備はできているか

評価：4／今年度より情報を公開している

課題と改善方策

会計士による会計監査を毎年度実施している。

また 2018 年度まで未実施であった財務情報も公開し、今後は継続的に公開していく。

評価委員からの質疑と意見

Q1. 財務情報はどこに公開されているのか

A1. 学院のホームページ上に公開している。

9. 法令等の遵守

9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

評価：4／設置基準を遵守し適正な運営が行えた

9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

評価：4／個人情報の取り扱いに関する規程を設け、必要な書類の完備および適切な保管を行っている。

9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

評価：4／自己評価を実施し、問題点の洗い出しおよび改善を実施した

9-4 自己評価結果を公開しているか

評価：4／公開を実施している。

課題と改善方策

個人情報に関して詳細な規定を作成し、書類の整備と保管を徹底した。自己評価に関して、毎年実施しているが外部への開示を実施していなかったため、こちらに関しても 2019 年度からホームページ上に開示していく。

評価委員からの質疑と意見

特になし

10. 社会貢献

10-1 学生の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

評価：4／学生によるボランティア活動などを実施している。

10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

評価：4／学院内にボランティアサークルを設け、その活動を支援している。

課題と改善方策

学生の地域貢献をサークルとして奨励し支援を行っている。

評価委員からの質疑と意見

Q1. 非常に良い取り組みだと思うが、具体的にどのような形でボランティアに参加しているのか

A1. 継続的にマラソン大会への救護スタッフとしての参加やロードレースにおける選手のサポート・ケア（アイシングなど）を実施している。